

◆経済倶楽部講演会第4324回（3月13日）

〈アジア平和貢献センター共催〉

変容する国際秩序・転機を迎えた中国の外交

早稲田大学大学院教授 青山瑠妙

- *対中脅威論にある各国の温度差
- *「二つの百年」に見る中国の国家目標
- *クリスマスツリーに似ている一帯一路
- *変化してきた民主化に対する姿勢
- *集権が加速し硬直化する外交政策
- *悲観・楽観が交錯する経済の長期予測
- *習近平外交の落とし穴は何か
- *必要性高まる言論による政権チェンク
- *国よりも地方政府が直面する年金問題
- *習近平体制を巡る権力闘争を考える



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は例年、年1回開催していますアジア平和貢献センターとの共催講演会でございます。

本日は早稲田大学の青山先生においていただきました。慶應大学を修了され、現在、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授でいらつしやいます。中国の状況についてたいへん冷静な分析をされるとの定評がございます。

それでは、青山先生のお話をいたたく前に、共催のアジア平和貢献センターの西原先生からご挨拶をいただきます。

西原 ただいまご紹介いただきました共催者の一つの柱であります一般財団法人アジア平和貢献センターの代表理事を務めております西原でございます。

この経済倶楽部の講演会はたいへんすばらしい、レベルの高い、長く続いている講演会でございますが、数年前から年に1回、私どもアジア平和貢献センターとの共催で、私どものセンターから講師を推薦することで行われております。

このたびは中国研究者としてたいへん活躍をしておられます早稲田大学現代中国研究所の所長であり、早稲田大学大学院教授であられます青山先生にお願いいたしました。日本にはたくさん中国研究者がいらつしやいますが、拝見しておりますと、青山先生のお考えにはそれらの方々とひと味違ふところがあるなど私は見ております。もちろん、青山先生は完璧なまでに日本の立場を理解しておられます。しかも學術